

新幹線プレス

2011年8月2日 No.5

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

職場を去りゆく先輩の苦言をどう受け止めるのか!? 管理者はその資質を問われる!!

7月29日、東京交番検査車両所から8月1日付けで出向へと旅立つJR東海労組合員は、始業点呼であいさつに立った。そのあいさつは、新幹線の職場で37年間にわたって働き続けた大先輩として、職場の後輩たちへ、そして現場を管理する立場の管理者たちに対して重く響くものであった。

事故原因徹底究明により3名の名誉回復を!!

あいさつに立った組合員は、昨年、1月29日に発生した架線切断事故について触れ、「チェックシートや後検査の重要性は、それとしてあるが、対症療法だけで終わることなく、その背後要因を含めた徹底説明が必要だ。」「現場でもっと情報をオープンにして職場で働く者が広く論じあえるように。そして、3名の名誉回復を!」と訴えた。

出向先の労働条件を提示を拒み 職場から追い出すためだけの出向!!

また、あいさつの中では、「すでに出向先の勤務は決まっているようですが、知らないのは私ばかりです。」と、言われている。

7月1日付けで出向していった別のJR東海労組合員は、やはり点呼のあいさつの中で「私は、明日からSEKに出向になりましたが、明日どこに行ってもいいのかわたしに知らされていません。」「こんな扱いは、私で最後にしてください。」と訴えている。

6月、7月、8月と、JR東海労組合員3名がたてつづけに「54歳原則出向」の名を借りて職場から追い出された。この3名に対して、出向先ではどんな勤務体系になるのか、どういう労働条件になるのか一切の説明はない。しかし、出向先ではすでに勤務表が出来上がっている。

この矛盾はどこから生まれてくるのか。それは、JR東海労の組合員を職場から放逐するということを目的にして、個人の労働条件など会社にとってはどうでもいいという事から発生している。

われわれは、こうした組織破壊攻撃に屈することなく職場の問題点を解決するためにさらに奮闘しなければならない。職場の理不尽なことを許さず、職場から声を出し闘いを進めよう!